強がってしまう、いつも。
「まだ大丈夫」。

笑顔でいるしかなかっただけ。
だって、私より、あなたの方が
心配だから。

心尖らせているようにみえるのは
誰かに気づいてほしかっただけ。
淋しさに、虚しさに
誰かじゃなく、本当はあなたに
気づいてもらいたかったのかな。

消えそうで　とぎれとぎれの声。

あなたのような人が生きるこの世界に
少しだけ、期待したいよ。

そして、私も「私」の幸せを
願ってもいいかな？

Another Voice

私に届いたあなたの声。

震災がおきたとき、小学5年生で11歳のときだった。小学校の体育館に居て。

家にも津波がきて、お父さんと自分以外、みんな津波にのまれて。助かったけど、お母さんたちはビショビショのまま小学校に迎えに来た。

家は一階部分は全壊。中学校に一回避難して、2～3日して原発で避難しなきゃいけなくなって、みんなでバスに乗って、わけも分からず長野に連れて行かれたばぁちゃんとかに「2～3日で帰るから大丈夫」と言われて、怖かったけどとりあえず行った。だけど3ヶ月くらい居ることになって、学校も転校しないといけなくて、嫌だったりして泣いてた。やっていなかった卒業式を夏にしたときに、友達に会えた。

福島に戻ってきて、今も仮設住宅で生活してる。

最近、男の人が声をかけてくることが多くなったというのを聞いた。自分も通る道で声をかけられている人が多くて、怖い。

——福島県 15歳・M

あのときは16歳だった。

学校で授業中だったよ。

震災後、進学で仙台市に住んでいる。

子どもたちの心のケアをしたくて教師目指して学校通っているの。

保健室の先生になりたくて。

——宮城県 19歳・A

震災があったときは、高校3年生だった。

進路は決まってたけど、短大の入学式がなくなって、それをテレビのテロップで知ってびっくりした。

短大に入って、いろんな地域から来ている子がいたけど、被害に違いがあるから「家、大丈夫だった？」くらいしか聞けなかったし、話せなかった。

震災から1年目、2年目までは授業中に黙祷の時間があったのに、今年はなかったから、だんだん忘れられているのかな。

——岩手県 22歳・K

南相馬から仙台へ引っ越ししようと思っているよ。

震災後は原発があって、放射能のことがわかんないし、外出たら危ないって言われて、家に引きこもるしかなかった。

県内の親戚が「うちに来い」って言ってくれて、お母さん、妹の3人で一週間くらい避難させてもらった。3世帯7人がそこの親戚の家に生活させてもらって、小学校の体育館で避難生活している人たちの炊出し手伝ったりしていた。

体育館がキュウギュウで、あ、この町にこんなに人が住んでいたんだなって思ったよ。

当時、私は高校を卒業したばかりで、妹は高1で。

お父さんはいない。暴力が原因で離婚したから、お母さんとは。

しばらくして南相馬に戻ったけど、友だちとかは進学先に移住しちゃったりして、こっちに戻ってこないの。

最近になってお母さんと「原発で放射能やら除染やらまだまだ町は危ないから出ようか？」って話してる。一緒には住まないけど。

今、仙台の友だちの家に住ませてもらって、仕事探してるの。

日払いでもらえるコールセンターとか、居酒屋とか、BARとかの。

昼も夜も働こうかなって思ってケイタイで仕事探したり。

貯金も1万しかないし、所持金もないから、ちょっと焦ってる。

お母さんも妹もそれぞれバラバラで、一人暮らしするつもり。

——福島県 22歳・M

震災が起きた時、18歳、高校卒業目の前だった。その時に付き合っている彼氏と連絡がとれなくて。

お姉ちゃんちに避難して、結構経ってから、テレビのテロップで彼の名前がのっていた。連絡つかないのもこれのせいかって思った。

その時はだいぶショックで、その時は誰にも言えなくて一人で泣いていた。ショックもあったし、開き直りもあったし。

それはそれで思い出として自分の中でも忘れたい部分もあるけど、忘れられない。

みんなに驚かれるけど、でももっと家族全員亡くなった方とかいるから、自分こんなんでめげてられないって思って。

——宮城県 21歳・A

高校一年生の冬だったよ。

マンションが6階だったから揺れがひどくて、家にいた私は倒れてきた物を片付けるのに必死だった。

水、電気、ガスが止まって近くの小学校に震災直後から避難生活で。

その2ヶ月間は長かったな。

今だから思うっていうよりも、基本、人に心配かけたくないし、誰にも心は開けないし、親には相談しない。

相談したいことがあっても相談なんて出来ない。

仕事辞めちゃって、お金に困ってエンデリとデリヘルの仕事していたよ。

知り合いのスカウトに紹介してもらって、自宅行ったり、ホテル行ったりして60分で手取り5000円。

お守りとして、いつもアフターピル持ち歩いていた。

客つかないと保証ないし、震災後はデリヘルが増えすぎて稼げないし。

こっちは稼ごうと思っているのに冷やかしの客が多くて。

つらいけど、仕事として割り切ってやっていたのに、それでも自分の価値がないって思ったり。

お金入ると、ホスト行っちゃったり、そのホストを好きになっちゃったりするから、やめたけど。

今は調理師の資格あるから、調理の仕事してる。

10万にしかならないから、お金が大変だけど。

——宮城県 20歳・M

家を出て4年くらいかな。TV観て新宿に憧れて。新宿に出てきた。15才のときに親が再婚して、義理父が嫌で。新宿では出会った人の家に泊まらせてもらったり、風俗体入してお金あるときはラブホ泊まったり、スカウトに紹介してもらって出稼ぎ行ったり。一年の内に、半年は出稼ぎ行ってるかな。行けば2、3週間はいる。

震災後は宮城県に行ったよ、石巻。家を流されちゃった人とかいたり、一回、仮設住宅にも呼ばれたよ。寂しそうだった。独りぼっちで。

——東京 22歳・R

あのときは、小学5年生で11歳のときだった。小学校の体育館に居て。

家にも津波がきて、お父さんと自分以外、みんな津波にのまれて。助かったけど、お母さんたちはビショビショのまま小学校に迎えに来た。

家は一階部分は全壊。中学校に一回避難して、2～3日して原発で避難しなきゃいけなくなって、みんなでバスに乗って、わけも分からず長野に連れて行かれたばぁちゃんとかに「2～3日で帰るから大丈夫」と言われて、怖かったけどとりあえず行った。だけど3ヶ月くらい居ることになって、学校も転校しないといけなくて、嫌だったりして泣いてた。やっていなかった卒業式を夏にしたときに、友達に会えた。

福島に戻ってきて、今も仮設住宅で生活してる。

最近、男の人が声をかけてくることが多くなったというのを聞いた。自分も通る道で声をかけられている人が多くて、怖い。

——福島県 15歳・M

あのときは16歳だった。

学校で授業中だったよ。

震災後、進学で仙台市に住んでいる。

子どもたちの心のケアをしたくて教師目指して学校通っているの。

保健室の先生になりたくて。

——宮城県 19歳・A

仕事はいろいろ。まとまったお金必要なときは出稼ぎ行ったり。歌舞伎歩いていれば紹介してくれるよ、スカウトが。何回か行ったよ。福島にも行った、郡山。震災後に一週間くらいかな。

新潟か福島かどっちがいい？って、スカウトに聞かれて、稼げる方でって言った。

ビジネスホテル泊まり込んで、客につくの。デリヘルの仕事だよ。保証は一日25000円だったかな。地元の人だったと思うよ。ラブホに呼ばれることが多かったから。

出張できてる人はビジネスホテルだし。明後日から街の女の子で仙台行く子いるよ、出稼ぎに。

——東京 29歳・R

震災があったとき、高校生だったよ、地震があったときは。

震災ある1年前から彼氏の家に住んでいて、彼氏の妹たちが仲良くて泣いていたからなだめていた。

あれから高校辞めてアパレルの仕事している。

震災前と震災後も大事な人は変わっていないよ。

——宮城県 20歳・K

あの時は17歳だった、高3になる前の。

その日はテスト休みで家にいて、家族は仕事で一人で家にいて。

地震が来たとき、怖くて、でもとりあえず落ち着こうって父親に電話した。家族のことがまず頭に浮かんだ。

おばあちゃんの家は沿岸部にあって、津波で流されてしまって。今、おばあちゃんは仮設住宅に住んでいて、体弱いし、一人暮らしだから心配だし、よく遊びに行くようにしている。

今年から社会人になってトリマーやっていて、大変だけど小学生の頃からの夢だったし、楽しい。

震災後に犬飼う人が増えたみたい。

震災のこととか身近な人には話せないこともあるだろうから、話を聞くようにしているよ。

——宮城県 20歳・A

住んでいるところは福島県。

震災あったときは中学生だった。

制服とかは流されてしまった。

普通です、不自由なことはなく。

お家は津波で流されてしまったけど、今は新しくお家建てて住んでいるし、家族で。

お父さんは漁師で試験操業みたい。

避難していたときも支援物資もらえて助けられた。

今の暮らしで充分です。

ただ、震災後にレイプされた子がいて、警察の人が「一人で歩いたりするときは気をつけて」って言っていた。

実際に私も歩いているときに、おじさんが顔近づけてきて「かわいいね、いい？」って声をかけられたことがあって、逃げてきた。

地元じゃないところから、いろいろな人が来るようになったからかな。

——福島県 17歳・M